

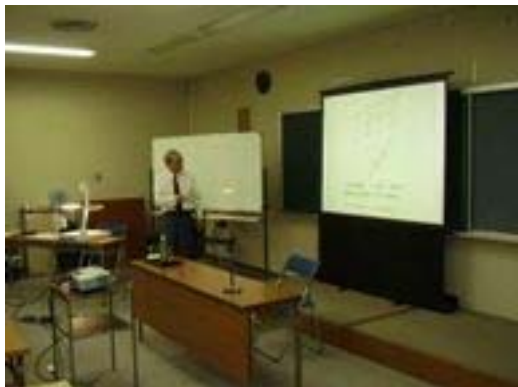
平成19年度北九州支部活動報告

北九州支部 竹平 洋幸

北九州支部では、平成19年10月3日水曜日に、西日本工業大学名誉教授の玉田文吾氏を講師に迎え、斜面崩壊について講義していただきました。

玉田先生には「斜面崩壊と降雨量との関係について」と題して、OHPを駆使し分かりやすく話していただきました。

斜面崩壊の種類と発生機構については、「表面崩壊」「崖崩れ」「表層地すべり」「堆積層地すべり」等の斜面崩壊の分類の話と、「斜面崩壊の素因」(地層中の弱面)及び「斜面崩壊の誘因」(降雨・地震等)の両方が揃わないと斜面崩壊は発生しないという話をしていただきました。



崩積土の飽和機構と降雨量との関係については、崩積土の飽和とは間隙空気体積が浸透水と入れ替わることであり、降雨量には「浸透降雨量」と呼称する限界値があるという話をしていただきました。

斜面崩壊と降雨量との関係については、中断降雨量を考慮した先行降雨量である「有効先行降雨量」を図式化した「有効降雨量曲線」を用いることにより、降雨の浸透状態の把握と斜面崩壊の種類と危険度を判断することが容易になるという話をしていただきました。



また、このような話の中で、「『地盤が緩む』とは素人に分かりやすい嘘の表現である」「一度すべったら強くなる」「円弧すべりは斜面崩壊では100%無い」「幅50mなら5年前、100mなら10年前から前兆がある」等の興味深い話もしていただきました。

これまで以上に、職員一人一人が防災についての専門知識を身につけることが強く求められており、この研修が少しでも参考になればと思います。

